

令和3年1月吉日

会員各位

公益社団法人高知県理学療法士協会
教育部部長 高芝 潤

第31回高知県理学療法士協会新人発表学術集会のご案内 (第2報)

新人発表学術集会を令和3年3月14日(日)《オンライン Zoom》にて下記の通り開催致します。つきましては、プログラム及び日程表を送付致します。

本学術集会へ参加される会員の皆様へのお知らせ (重要)

本学会は、本学術集会は、新人教育プログラムにおいて発表者はC-6症例発表(3単位)、参加者はC-7士会活動・社会貢献(1単位)の履修となります。また認定・専門理学療法士制度に登録されている会員の方は、都道府県士会の学術集会参加として10ポイント付与されます。参加される方は、日本理学療法士協会ホームページ内の「セミナー講習会情報閲覧」から事前にweb申請して頂くとZoomの会議URL(ミーティングIDとパスワード)が送られてきます。登録期日は2月28日です(セミナー番号24404)。

演者へのお知らせ

- 1) 発表形式はPowerPoint発表を基本とします。スライドの一枚目には演題名、所属、氏名がわかるように記載してください。第1報のお知らせでは、発表時間を5分としておりましたが、今後の他学会への参加も考え、7分へ変更したいと思いますので、発表者は調整をお願い致します。
- 2) 当日は、Zoomでの発表となりますので、スライドの共有方法など事前に各発表者で確認しておいて下さい。
- 3) 本学会では事前に座長へ発表スライドを送りたいと思いますので、PowerPointからPDFへ変換し以下URLの各発表者のセクションフォルダへアップロードをお願いします。〆切3月7日(日)
(https://drive.google.com/drive/folders/1YKa2IsjLjP4LX_0ZP_seyN6KfMJrYECd?usp=sharing)
アップロード時、必ずファイル名を演題番号・氏名としてください(例 S1-1・土佐太郎)。
アップロードの方法は、URLをクリックするとフォルダが開かれますが、高知県理学療法士協会のホームページの「近日中の予定」内「学会・研修会のお知らせ」に本案内を掲載しますので、そちらよりURLをコピーされると便利です。また、当日は聴講者がPDFを閲覧できるようにします。
- 4) 演題の抄録を、機関紙「高知県理学療法」に掲載します。発表者は同封の「高知県理学療法 新人発表 掲載原稿作成の手引き」に従い作成し、WordとPDFへ変換したものを2つ以下URLのフォルダへアップロードをお願いします。〆切3月14日(日)
(https://drive.google.com/drive/folders/1YKa2IsjLjP4LX_0ZP_seyN6KfMJrYECd?usp=sharing)
こちらもアップロード時、ファイル名を演題番号・氏名としてください(例 S1-1・土佐太郎)。

聴講者へのお知らせ

当日の発表スライドは、以下のURLより閲覧できます。ただし、スクリーンショットや写真撮影は禁止するものとします。高知県理学療法士協会のホームページの「近日中の予定」内「学会・研修会のお知らせ」に本案内を掲載しますので、そちらよりURLをコピーされると便利です。

(https://drive.google.com/drive/folders/1QWgkRT0LrwGCJy51iYZGW_KmcY9WEGT2?usp=sharing)

座長へのお知らせ

- 1) 上記の聴講者へのお知らせの URL より事前 (3月10日 18:00 予定) に閲覧できるようにしますので、事前確認にご活用下さい。
- 2) セクション開始予定時間の 10 分前を目途に入室ください。
- 3) 演者発表時間 7分を目安に、質疑応答を含め 1人 10分となっています。
- 4) ご担当の時間内で、活発な討議が行われるようお取り計らい下さい。

新人発表会日程

12:30	Zoom 入室開始				
13:00	開会式				
13:10	セクション I-1	セクション I-1	セクション I-1	セクション I-1	セクション I-1
14:10	セクション I-2	セクション I-2	セクション I-2	セクション I-2	セクション I-2
15:15	閉会式				

<お問い合わせ先>

高知県理学療法士協会 教育部
奥田 教宏

E-mail : kyouiku@kopta.net

第31回 高知県理学療法士協会新人発表学術集会(令和2年度)

～演題発表プログラム～

日本理学療法士協会 セミナー番号:24404 登録後ZoomのURLが自動配信されます。

目安開始時間	セッション	演題	発表者	所属	座長	演題
	セッション I-1 (運動器理学療法)				座長	だいいちリハビリテーション病院 田口 博之
13:10	S1-1	三宮 有貴	サンノミヤ ユキ	海里マリン病院		著名な殿筋群の弱さを認めた症例 ～逸脱した運動パターンに対する介入～
13:20	S1-2	宇田 春香	ウダ ハルカ	野市中央病院		脛腓骨近位端骨折術後患者の自宅退院に向けての取り組み
13:30	S1-3	大田 茉依	オオタ マイ	フレッククリニック		左肩腱板断裂の症例を経験して
13:40	S1-4	三木 悠大	ミキ ユウダイ	近森リハビリテーション病院		腰椎圧迫骨折患者の歩容改善に向けた介入
13:50	S1-5	福原 さき	フクハラ サキ	近森オルソリハビリテーション病院		両側UKA術後患者の歩行に関する一考察
14:00	S1-6	上田 江美奈	ウエタ エミナ	野市中央病院		左肩甲骨周囲の複合骨折を呈した症例 ～自宅復帰に向けての取り組み～
	セッション I-2 (神経理学療法)				座長	近森リハビリテーション病院 岩佐 恵子
14:10	S2-1	白石 みり	シライシ ミリ	もみのき病院		視覚フィードバックにより座位・立位姿勢が改善した症例
14:20	S2-2	福田 彩里奈	フクダサ リナ	須崎くろしお病院		高齢片麻痺患者に対する無語学習を用いた起居・移乗動作への介入
14:30	S2-3	中嶋 風華	ナカジマ フウカ	須崎くろしお病院		脳幹梗塞を呈した右片麻痺患者の歩行 -4点杖からフリーハンド歩行獲得までの経過-
14:40	S2-4	武内 成樹	タケウチ セイジュ	近森病院		パーキンソン症候群を呈する患者への転倒リスク軽減に向けた関わり
14:50	S2-5	高橋 多恵子	タカハシ タエコ	細木病院		転倒予防を目的にしたバランス能力へのアプローチ ～維持期パーキンソン病患者を通して～
15:00	S2-6	武市 美咲	タケチ ミサキ	白菊園病院		重度の左片麻痺を呈した患者様の移乗動作自立を目指した症例について
	セッション II-1 (生活環境支援理学療法)				座長	愛宕病院 上重 裕喜
13:10	S3-1	堀江 朋世	ホリエ トモヨ	リハビリテーション病院すこやかな社		脳梗塞再発を繰り返し、自宅復帰に難渋した症例 -家族、多職種連携の重要性-
13:20	S3-2	田村 亨介	タムラ キョウスケ	高知ハビリテーションセンター		壮年期片麻痺利用者における自立支援施設の関わり
13:30	S3-3	松本 龍雅	マツモト リョウガ	だいいちリハビリテーション病院		当院通所リハ利用者におけるFACTと身体機能との関連について
13:40	S3-4	濱田 理利	ハマダ ヨシカズ	ピアハウス高知		移乗動作の介助量軽減に向けて取り組んだ一症例 ～環境調整と本人および家族へのアプローチ～
13:50	S3-5	戸梶 暢久	トカジ ノブヒサ	高知病院		左大腿骨転子骨折を呈し自宅復帰が困難であった症例を経験して
14:00	S3-6	西村 直子	ニシムラ ナオコ	永井病院		仙骨脆弱性骨折を呈した高齢者の在宅復帰 ～環境設定と動作指導の取り組み～
	セッション II-2 (内部障害・生活環境支援理学療法)				座長	高知大学医学部附属病院 澤田 和成
14:10	S4-1	武市 帆果	タケチ ホノカ	須崎くろしお病院		離床に拒否的であった症例に対するセルフ・エフィカシー向上を目的とした介入 -運動療法の定着とHOT導入により在宅復帰を果たした症例-
14:20	S4-2	田代 渚	タシロ ナギサ	近森病院		食道裂孔ヘルニアにより誤嚥性肺炎を呈した一症例 ～離床に向けた取り組み～
14:30	S4-3	仁井田 征也	ニイダ セイヤ	近森病院		心不全ステージ分類Dの患者に対する自宅復帰へ向けた関わり
14:40	S4-4	松岡 秀明	マツオカ ヒデアキ	渭南病院		右肺炎で療養中に胸椎圧迫骨折を呈した症例退院支援を経験して
14:50	S4-5	瀬戸 恒汰	セト コウタ	白菊園病院		自発性低下に対しADL自立に向けて取り組んだ症例

セクション III-1 (神経理学療法)				座長	高知赤十字病院 大井 沙穂
13:10	S7-1	笹岡 千紘	ササオカ テヒロ	高知病院	課題指向型トレーニングによるADL能力向上を目指した症例
13:20	S7-2	山下 峰明	ヤマシタ ホウメイ	愛宕病院	内頸動脈狭窄症により脳梗塞を呈し左片麻痺およびPusher症候群が出現した症例 ー頸部・体感を細分化体性感覚フィードバックに着目してー
13:30	S7-3	田井 沙苗	タイ サナエ	白菊園病院	両側慢性硬膜下血腫を呈し、意識障害、起立性低血圧の改善に難渋した症例
13:40	S7-4	北岡 健太	キタオカ ケンタ	近森リハビリテーション病院	右視床出血に右上腕骨顆上骨折を合併した一症例
13:50	S7-5	谷相 史枝	タニアイ フミエ	近森リハビリテーション病院	脳卒中患者の歩行自立に向けた取り組み
セクション III-2 (神経理学療法)				座長	田野病院 岡林 輝親
14:10	S6-1	武田 知久	タケダ トモヒサ	近森リハビリテーション病院	注意障害を呈した左片麻痺患者の在宅復帰に向けて ～移乗動作に着目して～
14:20	S6-2	仙波 拓巳	センバ タクミ	いずみの病院	パーキンソン病患者の自宅復帰を目指して ～On-off時の移動方法に対して～
14:30	S6-3	三浦 健士朗	ミウラ ケンシロウ	内田脳神経外科	前頭葉機能障害により、歩行能力が低下した症例 ～すくみ足の改善に向けて～
14:40	S6-4	菅本 尚生	スガモト ナオキ	近森リハビリテーション病院	橋梗塞患者に対するBWSSTTの効果検証
14:50	S6-5	西森 一史	ニシモリ カズフミ	くぼかわ病院	両下肢皮膚潰瘍後廃用症候群を呈した症例 ー既往の頸椎症性脊髄症により在宅復帰に難渋した症例を経験してー
セクション IV-1 (基礎理学療法)				座長	土佐市民病院 津田 泰路
13:10	S5-1	竹口 大樹	タケグチ タイジユ	田中整形外科病院	左膝関節疾患を多数合併した症例を経験して ～T字杖歩行自立獲得を目指して～
13:20	S5-2	川江 紗布	カワエ サホ	愛宕病院分院	応用行動分析学を用いて移乗動作の介助量が軽減した症例
13:30	S5-3	徳橋 文太	トクハシ ブンタ	高知病院	右大腿骨頸部骨折, 右恥骨骨折, 左坐骨骨折を呈した症例 ～歩行機能に着目して～
13:40	S5-4	鈴木 裕也	スズキ ユウヤ	永井病院	二次性サルコペニア患者を担当して ー歩行と栄養アプローチの再検討ー
セクション IV-2 (運動器理学療法)				座長	細木病院 白石 恭兵
14:10	S8-1	高橋 昂嗣	タカハシ コウジ	フレッククリニック	左上腕骨頭壊死で上腕骨頭挿入術を呈した症例を経験して
14:20	S8-2	池田 憲周	イケダ ケンシュウ	高知大学医学部附属病院	術前評価に基づく膝前十字靭帯再建術術後患者に対する早期からの筋力改善への取り組み
14:30	S8-3	藤原 義大	フジハラ ヨシヒロ	海里マリン病院	人工膝関節置換術を施行した症例を経験して
14:40	S8-4	野崎 凌	ノザキ リョウ	高知病院	胸髄症と腰部脊柱管狭窄症を合併した症例について ～セルフトレーニングとの関わり方について～
14:50	S8-5	山本 龍樹	ヤマモト リュウキ	だいいちリハビリテーション病院	当院回復期病棟入棟患者におけるADLとQOL、入院経過の関連

新人発表 掲載原稿作成の手引き

- 1) 掲載原稿は下記の要領で作成し、Word と PDF へ変換したものを2つ以下 URL のフォルダへアップロードをお願いします。〆切 3月14日(日)

(https://drive.google.com/drive/folders/1YKa2IsjLjP4LX_0ZP_seyN6KfMJrYEcd?usp=sharing)

アップロード時、ファイル名を演題番号・氏名としてください(例 S1-1・土佐太郎)。

- 2) パソコン作成で、用紙設定は以下を参考におこなって下さい。
編集作業の都合上、上下左右の余白は必ず設定して下さい。

Microsoft Word を使用

- ・上部タブの「レイアウト」→「余白」→「ユーザー設定の余白」を開く
- ・余白を右・左・上をそれぞれ **20mm** に、**下は 30mm** に設定する。
- ・次に「レイアウト」タブ内の「段組み」→「2 段」を選択する。
- ・最後に「OK」を押すと設定が完了する。

- 3) タイトルは MS 明朝 12 ポイント太字とし、左揃えとなるようにして下さい。
- 4) 副題がある場合は明朝 10 ポイントとし、中央揃えとなるようにして下さい。
- 5) タイトル字数が多い場合はバランスを考慮しながら改行して下さい。
- 6) **9 ポイントで 1 行空行をはさみ**、施設名と氏名を入れてください。
施設名と氏名は MS 明朝 9 ポイントとしてください。
- 7) 施設名の後は、2 字空け氏名を入れてください。なお、施設名・氏名は右揃えとして下さい。
- 8) **9 ポイントで 1 行空行をはさみ**、本文を入れて下さい。
本文は MS 明朝 9 ポイントとして下さい。
- 9) 本文は原則的に、【はじめに】・【対象】・【方法】・【結果】・【考察】に分けて下さい。
症例研究の場合、必要に応じ【症例紹介】・【経過】等の項目を追加して構いません。
- 10) 本文は文字のみとします。画像等を入れなくて下さい。
- 11) 本文は横 25 文字×51 行を目安に **1,200 字程度**にまとめて下さい。
必ず左半分とし、右側の 2 段組み側へ掛からないようにして下さい。

演題名(明朝12pt)左揃え

副題がある場合は明朝10pt中央揃え

施設名〇〇2字空け氏名 9pt右揃え

本 文

明朝 9pt

基本的には「高知県理学療法 27 号」掲載分と同様のレイアウトです。そちらをご確認の上、作成して下さい。

<掲載原稿作成に関するお問い合わせ>

高知県理学療法士協会 教育部

奥田 教宏

E-mail : kyouiku@kopta.net